

庁舎及び福祉会館建設等調査特別委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 令和元年8月6日(火)
令和元年8月7日(水)

- 2 視察先及び項目
 - (1) 栃木県下野市 新庁舎建設について
 - (2) 埼玉県北本市 新庁舎建設について

- 3 参加者 委員長 白井 亨
副委員長 渡辺 ふき子
吹春 やすたか
鈴木 成夫
村山 ひでき
坂井 えつ子
湯沢 綾子
小林 正樹
斎藤 康夫
たゆ 久貴
篠原 ひろし
森戸 洋子
同行 高橋 茂夫(庁舎建設等担当部長)
今井 哲也(公共施設マネジメント推進担当課長)
前島 賢(福祉会館等担当課長)
随行 小松 尚寛(議会事務局)

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要	
【視察日程】令和元年8月6日(火)	【視察先】栃木県下野市
【視察項目】新庁舎建設について	
【視察目的】 庁舎建設に当たり、基本設計で重視した点、議会意見の取り入れ方、窓口動線及び市民参加の手法等、基本設計をチェックする上で必要な様々な事項の調査を行った。	
【事業の概要】 下野市は平成18年に3町の合併によってできた自治体で、分散庁舎の解消等を目的に新庁舎建設に取り掛かった。敷地面積21,394㎡、延床面積(庁舎棟)9,741㎡、鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)、免震構造、地上4階、工期は平成26年3月から平成28年1月まで、設計・管理は株式会社佐藤総合計画である。市内業者の活用のため、建物施工と外構工事を分けて発注した。「市民のよりどころ」となる庁舎を目指し、4つのコンセプトである「利用が多い市民課、福祉関係課を1階に配し、利用しやすい庁舎」、「免震装置、非常用発電を備え、災害時に市民がたよれる庁舎」、「市民ロビーなどの活用により、交流の場として市民が集う庁舎」、「太陽光発電、地中熱利用空調や熱反射ガラスなどにより、環境にやさしい庁舎」に沿った庁舎建設を実施した。	
委員1 1階スペースと土日の会議室が市民利用できる点は、市民交流の考え方に沿って設計段階から考えられていたことが分かる。市民ワークショップを6回も実施し、中学生ワークショップ、小学生などの現場見学会、子どもたち対象に開催したアーティストとの協働の作品づくりを行う「アートワーク」など、通常の市民参加のみならず、多様な市民に主体的に庁舎建設を捉えてもらうための取組は非常に良いと思う。	
委員2 下野市役所は各階の施設・機能の配置に係るコンセプトが非常に分かりやすくなっていた。特に1階は市民利用の多い窓口を集めており、手前の市民課から順に進んでいくことで手続を済ませられるワンフロアストップを魅力的に感じたが、市民からは歩く距離が長く不便だとの声もあったとの体験談は興味深い。ガラスを多用することによる視覚的效果を実感するとともに、懸念への対応等は本市でも生じることが予想され参考になった。	
委員3 効率の良い執務環境だったが、本市では実現は困難である。しかし、カウンターに座っている後ろを車いすが不自由なく通れるかなど、バリアフリーの観点での十分な確認が必要である。ICTなどは限られた機能でも明確なコンセプトに基づき配置されていた。実施設計での大きな工事費の変化については、基本設計で要求を正確に伝えていたので、あまりなかったとの事であった。至極当たり前の事だが、本市においても巻き返しを願う。	

委員 4

平成18年1月の3町合併により下野市となり、相応の市庁舎の建設計画を進める委員会を平成20年3月に発足させ、およそ8年の期間を経て、新庁舎を完成させている。用地取得完了が平成25年5月なので、先行して構想、計画、設計、ワークショップ等を行い、具体化作業を積み上げている。周辺環境も考慮し地上4階建てであるが免震構造としているのは、地震災害時に庁舎機能を維持、活用出来るように配慮したためとのこと。

委員 5

1階ロビースペースの開放、会議室の土日有料貸出など、市民が集える市庁舎に、というコンセプトの具現が分かった。また、太陽光発電や地中熱利用空調等の活用、雨水はトイレの洗浄水として再利用するなど環境配慮への取組は、小金井市の新庁舎建設に当たっても最大限取り入れるべきだ。市議会本会議場も議員の意見集約の下、進められたと聞いた。傍聴席の動線や議長席の高さは十分に確保するよう留意が必要ということが分かった。

委員 6

下野市の庁舎建設は、小金井市が設計業務をお願いしている業者と同業者が設計した庁舎である。建設費については、基本設計から実施設計に入っていく段階ではほとんど変わらず、実施設計から実際の建設費も少し増えただけだった。基本設計の段階でしっかりとまとまっていたということだと思う。また、使い勝手が悪いという苦情が職員や市民から出されたということであった。やはり設計は丁寧に注意して進める必要があると考える。

委員 7

小金井市と同設計事業者による建物であり、特徴的なガラスを使った明るい外観と空調施設、広々としたロビーが目をつけた。また、多くの市民が集う芝生広場やロビーには、交流の場として、下野市の特産品のユウガオをイメージしたベンチの配置などが、親しみやすさを増幅していた。建築費のほとんどは合併特例債を活用し、建築費的にも豪華な庁舎と感じた。外壁がガラスなので、窓口に來た市民の顔が逆光となり見えないこともある。

委員 8

下野市の人口は6万人、議員定数18名と当市と比較すると規模は小さい。小金井市役所の設計者の作品である。1階市民ロビーは開放感にあふれ、市民の憩いの場となるであろう。相談室と市民利用の会議室を2階、3階に配置し十分な広さである。休日、夜間の利用の際に執務室とのセキュリティ区画が明確である。執務室のバックヤードは使い勝手が良さそうである。議場関連では、傍聴席の前後の間隔が狭いことが残念であった。

委員 9

開放的な市民ロビーと、市民の個人情報扱うためセキュリティへの配慮が必要な窓口カウンター背後の執務スペース、プライバシーが確保できる相談室の配置や、執務のバックヤードだけでなく、職員休憩室・厚生室も兼ねる執務サポート室の配置は非常に参考になった。小金井市庁舎のそれぞれの機能のバランスについては、その業務量、職員数などを勘案し、最適なスペースを算出していくことが最も重要な課題であると感じる。

委員 10

本市と同じく佐藤総合計画による設計である。事前説明によると、新庁舎開庁は平成28年であり、デザインも似た部分が多い。これまでは、本市での新しい庁舎及び福祉会館に関して、パース図等でしか見ることが出来なかったが、実際の建物としての確認が出来たことは、大変有益である。視察説明の中で、「小学生現場説明会」の実施を知った。1度だけの開催とのことだが、対象を多岐に広げ、複数回の実施を検討すべきと感想を持った。

委員 1 1

本市の基本設計業者でもある佐藤総合計画が設計・管理した庁舎。全面ガラス張りの外観は室内温度が気になったが、熱反射ペアガラス・大型ひさしにより直射日光を抑える工夫があった。本市でも導入予定の地中熱利用空調は約5,800万円の工事費で環境省の補助金を充当している。しかし、春秋の季節は想定したほどの効果はないとのことだった。また、デジタルサイネージを活用し、庁内にポスター類を掲示しないのは良策だと感じた。

委員 1 2

市役所全体はガラス張り、建物内部は栃木県産の木材が使われていた。木材の活用は温かさを感じる。エレベーター、会議室にはガラスが使われていた。市役所内部もエントランスなど広く贅沢な作りである。地中熱や太陽光の活用など環境面で充実していた。文書については保管する場所が必要になり、付属棟を造ったとのことである。小金井市の文書管理の状況によっては何らかの検討をしなければならないと思った。

視 察 概 要

【視察日程】令和元年8月7日(水)

【視察先】埼玉県北本市

【視察項目】新庁舎建設について

【視察目的】

庁舎建設に当たり、建設コストの抑制を行った点、庁舎規模の決定の仕方、基本設計の上で議会や市民との調整や、留意するポイント等の調査を行った。

【事業の概要】

北本市は平成10年度に庁舎建設基本計画を策定したが、その後財政難を理由に建設計画の見直し・延期が決定した。平成18年度に改めて庁舎基本構想を策定し、平成19年度から翌年度にかけて庁舎建設基本計画を策定し、平成24年度建設工事の着工を経て、平成26年度末に関連工事を全て完了し、竣工に至った。当初は、庁舎建設のみの予定だったが、児童館(当時は「(仮称)子どもプラザ」)を併設し、L字型の建物で複合化した建築物となった。「みどりに囲まれた市民をむすぶやさしい低層庁舎」を掲げ、「地域で考える配置計画」、「低層の庁舎による配置計画」、「災害に強い新庁舎(防災拠点の強化)」、「明快な構成により市民の利便性や業務の効率性に配慮した平面計画」の4つのコンセプトに沿った庁舎建設を実現した。建設コストにおいては、主に鉄骨造を採用し、免震装置を用いない耐震構造であること、また、地下階や仮設庁舎を造らず、低層建築にこだわり、既存什器を一部転用することで、徹底的に建設費を安くすることに取り組んだ。敷地面積が13,511.14㎡、延床面積が11,147.90㎡(庁舎:9,593.98㎡)、鉄骨造、耐震構造、I類で児童館部分や周辺道路整備も含めた工事費合計は40億1,400万円である。現在認識している課題としては、一般的な事務所ビルの内壁と同様の仕上げ(石膏ボード+塗装)は、工事費は安い、傷や汚れが目立ち清掃がほとんどできないこと、植栽、緑化駐車場等が多く配置されたが、水揚げ、雑草等の管理が不十分となることなどが挙げられる。また、空調システムは電気・機械により1年中制御が必要なため、窓開け換気を含めた通風とエアコンの組み合わせよりも電気代・メンテナンス代が増えることが分かったという。



委員1

庁舎内に災害対策本部、庁舎前の広場が災害活動(近くの公園とともにテントサイト、帰宅難民者の一時避難等)場所、隣の文化センターは支援物資集積拠点、近くの中学校は物資輸送拠点(場外飛行場)ヘリポート、中学校体育館は、避難拠点という災害発生時の拠点として、連携構成が非常によく考えられている。建設費コストを抑えるための各種選択は、庁舎全体の耐用年数やメンテナンスコストを比較した上で判断すべきだと感じた。

委員2

北本市役所の特徴は児童館が併設されていることで、福社会館や保健センター機能の導入を予定する本市には参考になる事例だった。遊具や子ども図書館を備えた施設は素晴らしく、子どもや保護者に喜ばれていることが伺われた。そのことで市役所全体が明るくにぎわいのあるものになったという。一方、会館時間の違いや施設メンテナンスに係る悩み、駐車場が混雑することへの苦情など、複合施設ならではの課題があることも実感できた。

委員 3

各課の間仕切りがなく、課長も同じ島のテーブルに座ることで、意思疎通が図れ、業務効率化に繋がっている点は参考になった。限られた期間での引越しを成功させるため、ICTの観点では、事前の十分な準備が肝になる。免震装置を採用しないことにおける議会などの対策については、プロポーザル提案そのものであり、特に問題は出なかったとのこと。選定結果、建築費用、福祉会館の竣工時期を考えた、市の明確な判断が求められる。

委員 4

北本市の新庁舎建設工事は4棟の分散庁舎を使用しながら、1期、2期と工期を分けて建設した。省エネ、環境等への配慮からエコボイド、高断熱、太陽光発電、空調設備、照明等を採用している。また、建設コスト抑制のための構造案を採用するなどしている。現在の課題等について率直かつ貴重な意見を明示していただいたことは、建築物には、中長期的視点も必要であることを納得させられる。

委員 5

分散庁舎、バリアフリーや耐震構造に課題があるなど、本市庁舎が抱える課題と酷似していた。建設に当たり、鉄骨造とすること、免震ではなく耐震構造にすること等、コスト削減への尽力がよく分かり参考にしたい。その他、印象的だったのは、複合の児童館の利用者が多かったこと、市庁舎1階のロビースペースで、市内障がい者施設の物品販売を行っていたこと。常設でないワゴン販売だが、開庁日には、毎日販売を行っていると聞いた。

委員 6

北本市の庁舎建設は、旧庁舎が4つに分散しており、古くて耐震に問題があり、借地の部分もあったということで小金井市と状況が似ていた。また建設地に既存の建物がある中で建設することや、市の方針変更により庁舎単体ではなく福祉施設をL字型に付けるという点も同じであった。そのような状況であるが、工事費については、延べ床面積が約1万2,500㎡に対して約40億円ということだった。工事費削減について参考にしたい。

委員 7

庁舎と児童館が複合している建物は、建築面積や、庁舎・福祉会館が複合する本市の建築にも参考になるものだった。地盤のしっかりした地に建つ庁舎であるとのことで、あえて免震構造ではなく鉄骨造の耐震建築として経費を抑えたつくりになっていた。緑をいかした緑化駐車場については、雪かきに適さないなどの現実的課題も示された。議場や委員会室の机、椅子なども従前のものを再利用するなど現実的で参考になった。

委員 8

北本市の人口は6.7万人、議員定数20名と当市と比較すると規模は小さい。児童館との複合施設である。建設コストが30.7億円と低いことは注目に値する。低層、鉄骨造、耐震構造、地下階はないが、小金井市役所建設の参考にするには、評価は分かれるであろう。児童館との複合化の経緯は不明であるが、構造、意匠ともエキスパンジョイントで分かれている。1階の市民ホールは市民にとって喜ばれていると思われる。

委員 9

庁舎に隣接する中学校は災害時のヘリポートとして使用可能な物質輸送拠点、文化センターは支援物資の集積拠点として定めてある。災害対策本部が設置される庁舎は、様々な災害対応機能を備え、防災拠点機能強化を強く意識している点が大きな特徴である。建設費削減のため鉄骨造とするなど、様々な工夫があったが、床材や内装壁仕上げ材によっては、維持・管理コストが増大するとの説明は、本市でも参考にすべき点と感じた。

委員 1 0

北本市役所は、子ども図書館と児童館が併設してある。ちょうど、夏休みだからか多くの子ども達でにぎわっていた。子ども向けの施設の持つイメージの所為だからだろうか、市役所の1階ロビーがとても明るく感じられた。説明では、ICT設備は設計段階では、導入をせず、実際に開庁後に必要性を感じ、取り付け作業を開始した話など、事前の段階での検討協議がとても重要なことが繰り返し話されていたことが印象に残った。

委員 1 1

児童館・防災倉庫棟との複合庁舎。コスト面から免震装置を用いずに耐震構造を採用し、基本計画、設計時、施工時の各段階における100項目以上の課題を検討したとのこと。工事発注から竣工後まで一番読み返すことが多いのが基本設計図書だと再認識した。特に、竣工後の課題として説明いただいた、内壁の色、タイルカーペットのエリア分け、空調システム、各種機器装置のメンテナンス、緑化駐車場についての感想を参考にしたい。

委員 1 2

40名の市民が参加する検討会議の7回の開催を経て、基本設計が策定されている。市議会の委員会でも庁舎建設に関わる決議が何度も議決し、費用の削減等を要請している。全体として、シンプルでコンパクトな庁舎となっている。100項目以上の課題の整理を行っていること、基本設計時の理念が必要であるとの話や、壁やカーペット、各種機器装置のメーカー保証が切れた後の修理費用の増大等についても大変参考になった。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 124,230円

〈内 訳〉 委員旅費	@ 9,710円	× 12人	=	116,520円
	1人あたり旅費	交通費		4,110円
		日 当		5,600円
職員旅費	@ 7,710円	× 1人	=	7,710円
	1人あたり旅費	交通費		4,110円
		日 当		3,600円

2 執 行 額 124,230円

〈内 訳〉	交通費	53,430円
	日 当	70,800円

3 差 引 残 0円